

THE 53RD KANAGAWA ART EXHIBITION 2017

第53回

神奈川県 美術展

全国公募展

神奈川県美術展委員会・神奈川県民ホール・神奈川県

第53回神奈川県美術展

The 53rd Kanagawa Art Exhibition 2017

1期展 [平面立体]
平成29年6月14日(水)～6月21日(水)

2期展 [工芸・書・写真]
平成29年6月24日(土)～7月1日(土)

会 場
神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展
平成29年7月3日(月)～7月14日(金)
休み：7月4日(火)・10日(月)・11日(火)

会 場
厚木市文化会館展示室

主 催
神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール
[指定管理者：(公財) 神奈川芸術文化財団]
神奈川県

共 催
(公財) 厚木市文化振興財団

協 賛
(公財) はまぎん産業文化振興財団
神奈川県文具事務用品団体連合会
(株) ニコニイメージングジャパン
(株) ホテル、ニューグランド
松田油絵具(株)

後 援
神奈川新聞社・NHK 横浜放送局
tvk (テレビ 神奈川)・FM ヨコハマ
横浜高速鉄道(株)

第53回 神奈川県美術展 関係者名簿

(平成29年6月14日現在)

神奈川県美術展委員会					
委員長		磯見 輝夫			
副委員長		林 義亮			
委員					
水沢 勉		五十嵐 卓		尾長 良範	
福士 朋子		笹山 央		川口 淳	
川口 流坡		西村 東軒		伊奈 英次	
関次 和子		大場 勇人		折原 守	
審査員					
平面立体					
尾長 良範		近藤 昌美		沢山 遼	
水沢 勉		ミヤケマイ			
工芸					
小川 郁子		川口 淳		古伏脇 司	
笹山 央		留守 玲			
書					
麻生 泰久		川口 流坡		齊藤 紫香	
船本 芳雲		山中 翠谷			
写真					
伊奈 英次		上野 修		大西みつぐ	
関次 和子		渡部さとる			

応募・入選・入賞者数一覧

	平 面	立 体	工 芸	書	写 真	合 計
応 募	309人 (384作品)	70人 (75作品)	119人 (130作品)	143人 (143作品)	218人 (513作品)	859人 (1,245作品)
入 選	86人 (86作品)	20人 (20作品)	91人 (96作品)	124人 (124作品)	66人 (66作品)	387人 (392作品)
内、入 賞	8人 (8作品)	5人 (5作品)	9人 (9作品)	9人 (9作品)	9人 (9作品)	40人 (40作品)

※入選・入賞数は、平成29年5月22日時点で確定した数字です。

ごあいさつ



神奈川の文化芸術の力を結集した神奈川県美術展を今年も開催できますことを、主催者の一人として大変嬉しく思います。また、本美術展の開催にあたり御尽力いただきました関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

今年で第53回を迎えるこの美術展は、県内最大規模の公募美術展として、長年にわたり、神奈川の美術界を牽引してきました。芸術家を志している方から、趣味として創作活動に取り組まれている方まで、これまで、大変多くの方々に、出品いただいております。また、本美術展の水準は非常に高く、これまで多くの方が入賞を機に全国、そして世界へと羽ばたいていきました。

昨年からは、全国公募と、県内だけではなく県外からも、優秀な作品が集まりました。今回も、平面立体、工芸、書、写真の各部門合わせて1,245点にのぼる出品がありました。会場には、数々の力作の中から厳正な審査を経て選ばれた素晴らしい作品が展示されています。来場の皆様には、作家の方々の豊かな感性、優れた芸術性を存分に味わっていただけるものと思います。

県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域の賑わいを創り出す、マグネット・カルチャー（マグカル）の取組を推進しています。美術を通じた活動の一つひとつが、「マグカル」を進める大きな力になるものと考えています。

最後に、このたび出品くださいました皆様の、創作活動への情熱に対し深く敬意を表しますとともに、皆様のますますの御活躍を心からお祈り申し上げます。

平成 29 年 6 月 14 日

神奈川県知事 黒岩祐治

ごあいさつ



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始まりました。県内随一の公募美術展として広く県民に親しまれるとともに、新進作家の登竜門としてこれまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

さて本展は、昨年より、年齢や国籍を問わず、全国のどなたでもご応募いただける全国公募となりました。2年目となる本年は、さらに多くの地域から応募作品が集まりました。応募数は、平面立体、工芸、書、写真の全4部門で1,245点となり、各部門の厳正な審査の結果、全392点の入賞、入選作品が選ばれました。

本展は、多彩な美術作品を一度にお楽しみいただける絶好の機会です。また、神奈川県民ホールギャラリーの展示空間を活かした大作も見どころの一つです。

さまざまな想いのもと、多くの時間をかけ制作に臨まれ出品された、全ての皆様に敬意を表したいと思います。そして、これからもこの神奈川県美術展において、新たな時代を切り開くような美術作品と出会えることを祈念いたします。

本展において、厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、運営に関し専門的な立場からご助言をいただきました委員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

さらに、各賞を賜りました公益財団法人はまぎん産業文化振興財団様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ニコンイメージングジャパン様、株式会社ホテル、ニューグランド様、松田油絵具株式会社様、公益財団法人厚木市文化振興財団様をはじめ、ご関係の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成 29 年 6 月 14 日

神奈川県美術展委員会委員長 磯見輝夫

目次

1 期展 平面立体

受賞作品目録 平面立体	6
入選作品目録 平面	7
入選作品目録 立体	8
審査講評 平面立体	9
平面立体 受賞作品	10

2 期展 工芸・書・写真

受賞作品目録 工芸・書・写真	20
入選作品目録 工芸・書・写真	21
審査講評 工芸	25
工芸部門 受賞作品	26
審査講評 書	32
書部門 受賞作品	33
審査講評 写真	39
写真部門 受賞作品	40

平面立体

1 期展

受賞作品目録

平面立体

大賞	麻生 知子	藤沢市	浴場	平面
準大賞	三浦 航	山形県	等身大の景色	立体
特選	室井公美子	山形県	Psyche	平面
奨励賞	根本 雅行	藤沢市	sand_01	平面
かながわ賞	西川 絵里	相模原市	噴水	平面
かながわ賞	加々見太地	川崎市	The Floater	立体
県立近代美術館賞	村田恵理子	東京都	ながめる、そこにいる、はなれるように。	平面
県議会議長賞	竹内めぐみ	群馬県	夢から	平面
美術奨学会記念賞	横倉 裕司	横浜市	after sunset	立体
美術奨学会記念賞	中澤 安奈	横浜市	未だ見ぬ地へ 一裂かれた幕よりー	立体
はまぎん財団賞	内田 望	相模原市	Bull Bike	立体
マツダ賞	飯村 優介	横浜市	水象ヤマカミ'17L	平面
厚木市文化振興財団賞	飯沼知寿子	厚木市	反復の息づかい	平面

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の出品者を対象とした賞です。

※県立近代美術館賞は、平面立体部門において神奈川県立近代美術館による作品買い上げ賞です。

※県議会議長賞は、平面立体部門において県議会議長より贈られる賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※はまぎん財団賞は、平面立体部門において（公財）はまぎん産業文化振興財団より贈られる賞です。

※マツダ賞は、平面立体部門において松田油絵具（株）より贈られる賞です。

※厚木市文化振興財団賞は、厚木市在住の出品者を対象とした賞です。

※市町村名は現住所です。

※県立近代美術館賞以降の賞は、創設順に記載しています。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者の提供によります。

平面

Nakamura Toru	flower
阿部 智子	《聯／断 triage L9》
松浦 功文	形－ロウソク
知久 茂雄	記憶の街・夏
安田 文夫	女人乱舞(清子×吉川夫人・お秀×延子)
河原條勝己	曙(時)
稲垣なほ子	灯
大森 弘之	雨と傘
瀬谷 豊	一つの詩
山田 彊一	妖怪イン・尾張(B)
後藤 夢乃	創造する二極
徐 凡	FLOWING
工藤亜希子	「親を預けたい」老人ホーム 50年後の自画像
鈴木日南子	曖昧な境界
山内 賢二	あとさき
福村 彩子	嵐の海
青砥 伊臣	モルタルの海市
三角 裕美	基準点
MASA Shibuya	草間彌生にプレゼント II
西山 巖	華山 II
山本 諭史	横浜散策 II
秋葉麻由子	成りそこない
諸橋 花野	ぞろぞろ
飯田 耀子	SOUKOKU II
河合 真里	pair
ササキ永利子	ご自愛下さい
前田 秀水	You are here.
彌益 麻実	a whispered conversation
中里 葵	画一化する風景 20
ヒヒ	family
小野澤久美	A Wake-up
藤巻 春恵	personal information
間嶋 宏美	道のり
依田 淳二	たそがれ その一
加藤 覚	首都高速夜景
伊関しおり	侵食
SEO HYE	節制によって作られたかたち
道古 明	Collage I
赤堀 英子	寒い朝

平田 清隆	無題
張 巧君	The Stranger (異邦人)
川上 喜朗	きしべ
濱田 祐	肖像のありか
千葉 純子	暮らし
山崎	小春日和のシュプリームドレス
松下 貴根	音の無い世界
SONG YEON JOO	Memory of the sense of sea 2016-I
大寺 博	Crossroad
横山 瑛子	耀く
廣江 友和	reflection mountain
大塚とみ子	宇宙の響き
坂本 健一	カウンターに立つ女の肖像
杉浦 弘昭	母と娘(イングマル・ペルイマン「秋のソナタ」より)
平林 英一	森へ／夜の香り
金子健一郎	Next Paradigm
木村梨枝子	「場所」2016-12-1
菊池 浄雲	慮生の夢
清水 亮輔	scene 01
磯野 悦郎	エネルギー
藤森 哲	tableau 2017-01
西村 藍	流れ
美濃 寿則	秋うつす
手島 圭子	紛れなくそこに熟まれたもの～それぞれのかたち～
曾 超	政治家
三井麻祐子	発生
椎橋 良太	the origin #22_L
福住 真奈	友希・太希・鴻希
山口 光	都会は孤独を煽る
佐々木可奈子	clay
渡辺 佑基	はむたま
鈴木英里子	まどろみ
清水 麻実	mikros
佐々木朋子	繫
手嶋 遥	うなさか
カシワギキチ花	Unsettled “Timer”
広瀬 弘幸	景 1
齋藤 梧太	訪れ
名執 一雄	10/11

※掲載は作品番号順です。

立体

岡田健太郎	岩と工場
しらとりあきこ	増殖するぬい目
後藤 良二	ゆらぎ
坪井 真	分離した経験
設楽 陽香	inner part 1
森本 諒子	Wild life 01
三森 早苗	空をうける
金井 葉子	嚙香
栗原 麻緒	変革
横田 憲一	赤と白
Shuta Oku	F's 11
水田 有紀	想い 2
上原 佳代	サナギの記憶
宮本 智之	両面の家
中村 宏太	ズレ

いまこの文章を書いている評者自身を含む、あらゆる生産者は絶えず批評にさらされている。同様に、批評する者はかならず批評される。そして、批評はあまねく状況に遍在している。

批評は言葉によるものに限らない。建物は建物として風雨に耐え、構造的に自立し存続することによって、道具は道具としての使い勝手や信頼において批評される。匿名の、歴史の、自然の威力が、ここでの最大の批評である。しかし、一方で、近代以降の芸術ほど、言葉による批評や言説に依拠してきた世界は存在しない。すなわち、あえて道具やデザインを括弧付きの「芸術」の範疇に含まず、非有用的な絵画や彫刻を「芸術」とするのであれば、それはその非有用性において、批評的言説との闘いを避けて通ることはできない。それが絵画や彫刻といったジャンルを標榜するのであれば、そのような性質のオブジェクトは良くも悪くも、近代以降の言説の蓄積としての歴史過程にかならず巻き込まれてしまう。

絵画、彫刻だけではない。とりわけコンセプチュアル・アートは、そのような批評的言説の効果に全面的に依拠することによって成立している。そのため、そのような芸術表象は、世俗的なパラダイムの変異によって、容易に変節、転倒してしまう危険も備えているだろう。逆に言えば、コンセプチュアル・アートは、そのような批評的言説の不安定な揺れ、耐え難きこそを焦点にしていたとも言えるかもしれない。

それに対し、伝統的に磨かれてきた各表現の技術、造形、構造など側面における事物の力学的な運用能力の洗練はひとつの内的な指標、信になりうる性格を備えたものであって、審査の過程でわれわれ審査員が依拠することになるのも、そのような具体的な運用能力とその実現のレベルにあった。しかし、芸術、とりわけ現代芸術の批評や判定を困難にしているのは、上記のような言説的なレベルの介在だ。そこにたんなる技術の発現以上の水準における闘いが発生しているのか、それは歴史との葛藤や闘争を抱えているのか、という問い——。その二つの批評的なクライテリア（基準）の判定において、いくつかの作品が

絞り込まれることになった。

大賞に選出された麻生知子さんの《浴場》は、画面全体がさまざまな空間配置的な矛盾や異なる絵肌を備えつつ、それを平明な画面操作によって平準化し、開放的で明るく、説得力のある空間性をつくりだしている。また、浴場それ事態が備えたグリッドや幾何学的な線条と人や水などの動きのある表象の違いを尊重し、高め合うようなポジティブな開放感に満ちた世界が魅力的な絵画だと思う。

準大賞には、三浦航さんの《等身大の景色》が選ばれた。鉄を叩き、折り曲げる作業から生み出された波打つ表面がアーチとなり、一種の通路＝パサージュとなることによって、そこを人がくぐることのできる作品は、鉄の重量性や彫刻的な量塊性を相対化しつつ、彫刻を含む空間や鑑賞者との関与をもたらしという点において、オーソドックスな近現代彫刻の問題系を引き受ける手堅い作品であると感じた。

応募作品は、総じて、技術的・造形的に洗練された作品が多く、かつ、それが地域や年齢の隔たりなく出品されているという点に、芸術教育や視覚芸術自体の普及とその蓄積を感じた。だが、一方で、その技術的洗練は、作品それ自体の穏健さ、安寧さと手を取り合っているのも事実だろう。これは全国の美術・芸術系大学全般で日々制作される作品群にも言えることだ。しかし、なにも、政治的な主題を掲げることだけが政治的であるわけではない。政治のない場にこそ政治が存在する。たとえば、色やかたちなどの複数の要素からなる絵画平面は、まぎれもない政治的闘争の場だ。政治についての芸術ではなく、政治そのものとしての芸術。新たな生の場、可能性の場をそこに切り拓けるかどうか、今後の芸術の命運がかかっている。参考として、最後に、ジョン・ケージの言葉を引く。

— a political art which is not about politics but political itself. (註1)

(註1) John Cage, quoted in Alfred Kazin, “Whatever Happened to Criticism?” *The Bulletin of the Midwest Modern Language Association* 5, Papers of the Midwest Modern Language Association, no.2 (1972): 19.



大賞

浴場

麻生 知子

油彩、キャンバス
162×227.3cm

〔略歴〕

- 1982年 埼玉県生まれ
2009年 東京造形大学卒業
卒業後より友人の武内明子と日本全国二人展の旅《ワタリドリ計画》を始める。
2016年 夫の須藤一實が神奈川県藤沢市の自宅敷地内に《山内龍雄芸術館》を設立。
運営協力をしている。



準大賞

等身大の景色

三浦 航

鉄

195×95×140cm 100kg

[略歴]

1987年 宮城県に生まれる
2016年 東北芸術工科大学 芸術学部 美術科 彫刻コース卒業
2017年 現在 同大学大学院 芸術工学研究科 修士課程 彫刻領域在籍

[受賞歴]

2016年 東北芸術工科大学 卒業制作展 美術科最優秀賞受賞

[展示]

2012年 「アフィニス夏の音楽祭 2012」立体作品制作（共同制作、山形県山形市）
2013年 芸術の収穫祭 かっさりまつり（山形県小国町）
2014年 芸術の収穫祭 かっさりまつり（山形県小国町）
2016年 東北芸術工科大学 卒業制作展（山形県山形市）
2017年 三浦 航 彫刻展（山形県山形市 洗心庵）



特選

Psyche

室井 公美子

油彩、キャンバス
227×182cm



奨励賞

sand_01

根本 雅行

アクリル、灰
163×117cm

かながわ賞

噴水

西川 絵里

油彩、キャンバス
145.5×224cm





かながわ賞

The Floater

加々見 太地

樟、水性塗料
83×186×105cm 140kg

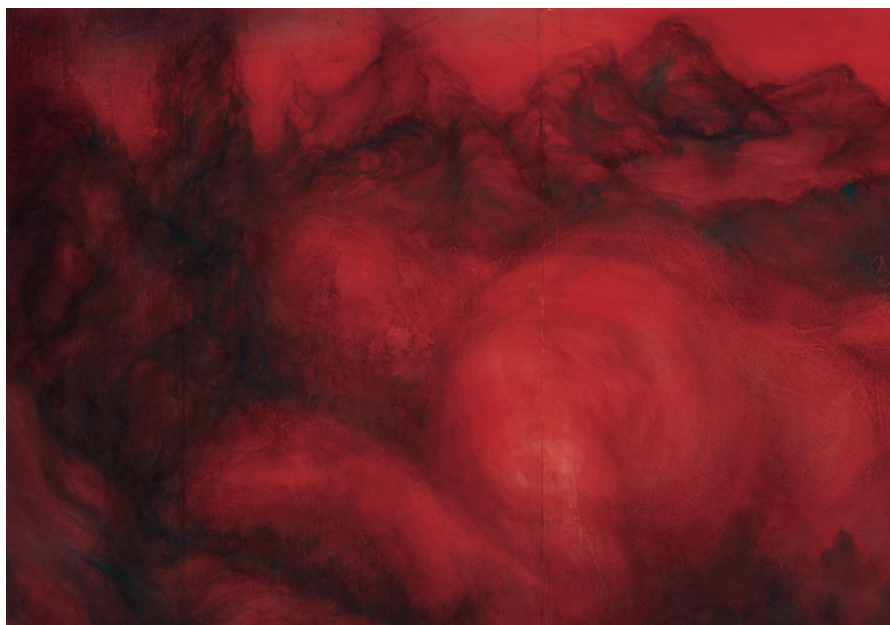


県立近代美術館賞

ながめる、そこにいる、はなれるように。

村田 恵理子

綿布、岩絵具、アクリル絵具 130.3×162cm



県議会議長賞

夢から

竹内 めぐみ

シナベニヤ、典具帖紙、水干、朱、岩絵具
160×225cm

美術奨学会記念賞

after sunset

横倉 裕司

粘土、ワックス、木製台座
150×130×70cm 30kg





美術奨学会記念賞

まだ見ぬ地へ 一裂かれた幕より

中澤 安奈

楠 243×280×210cm 560kg



はまぎん財団賞

Bull Bike

内田 望

鉄、真鍮

132×275×80cm 65kg



マツダ賞

水象ヤマカミ'17L

飯村 優介

油彩、キャンバス

227.3×181.8cm

厚木市文化振興財団賞

反復の息づかい

飯沼 知寿子

油彩、キャンバス

130.3×194cm



工芸・書・写真

2 期展

受賞作品目録

工芸

大賞	花塚 愛	横浜市	水めぐり	陶
準大賞	青谷 徳子	東京都	青と静謐	刺繍
特選	石橋 聖肖	茅ヶ崎市	圏界一雲に浮く一	金工
奨励賞 厚木市文化振興財団賞	岡田 光子	厚木市	fall	陶芸
かながわ賞	木原 名代	相模原市	めぐみの樹	七宝
かながわ賞	大小田万侑子	鎌倉市	貝殻円文壁掛	染織(型染)
美術奨学会記念賞	伊藤 雄基	埼玉県	ほんとうのことばになるまでのあいだ	金工
美術奨学会記念賞	戸叶 恵介	岐阜県	青華祭壺	陶
ホテルニューグランド賞	山崎 純子	愛媛県	淡花	ガラス

書

大賞	下門 芳子	伊勢原市	夜露	
準大賞	横山 聖水	横須賀市	把酒問月	
特選	馬場 虹苑	横浜市	有馬朗人の句	
奨励賞	池田 玲舟	横浜市	司空曙詩	
かながわ賞	小林 大鴻	伊勢原市	老子語	
かながわ賞	生駒 蘭嵩	鎌倉市	項俅詩	
美術奨学会記念賞	日守 鍊	中郡大磯町	凜然と在るもの	
美術奨学会記念賞	古里 航	横浜市	徳如海寿似山	
県文具事務用品団体連合会賞	河又世津子	川崎市	いさり火の	

写真

大賞	加山 邦輔	川崎市	里農の転作	3 枚組
準大賞	小村 真以	東京都	サーカス・ナイト	
特選	三村 信昭	横浜市	はなチャンの月旅行	3 枚組
奨励賞	山中 春海	横浜市	はつひので	2 枚組
かながわ賞	山西 郁実	相模原市	メロディ	3 枚組
かながわ賞	市川 雅章	横浜市	駄菓子屋の夫婦	2 枚組
美術奨学会記念賞	大野 詳平	横浜市	痕跡	3 枚組
美術奨学会記念賞	ウェアミルネ	相模原市	ひとのこ	2 枚組
ニコン賞	吉村 奈々	東京都	残響	

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の出品者を対象とした賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県の美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※ホテルニューグランド賞は、工芸部門において(株)ホテル、ニューグランドより贈られる賞です。

※厚木市文化振興財団賞は、厚木市在住の出品者を対象とした賞です。

※県文具事務用品団体連合会賞は、書部門において県文具事務用品団体連合会より贈られる賞です。

※ニコン賞は、写真部門において(株)ニコンイメージングジャパンより贈られる賞です。

※市町村名は現住所です。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者の提供によります。

入選作品目録

工芸

モト	ドレミ サファリ	綴れ織り
村上 力	阿修羅	漆
吉田 浩一	clione planet	ステンドグラス
花見 昌道	好奇心	陶芸
藤田 慎治	葡萄紋白釉大壺	陶芸
佐藤百合奈	やさしくつつむー1	陶
佐藤百合奈	やさしくつつむー2	陶
大杉 幸代	碧に舞う紅華	陶
中沢 有美	黒柴	羊毛フェルト
中沢 有美	おやつちょーだい	羊毛フェルト
石川 秀隆	焔 (老梅焼)	陶芸
さわべともこ	fusion	陶
渡邊亜紗子	語りかける者ー影を抱くー	陶芸
竹形 夏野	明日への旅立ち	ステンドグラス
中山 多昌	黒白蠟抜き皿	陶芸
渋井 鈍秀	縦縞紋様瓶	陶
深野 怜	染付銀彩皿「交響」	陶芸
手作り工房 「暮楽花人の風」 瀬戸 清美 池上 節子 磯崎さち子	はな心	ドライフラワー
吉池ちひろ	沖縄の宝 みんな百歳	織物
橘川 和男	春落葉	木漆工芸
赤坂 堇	inside	染 (シルクスクリーン)
ナカヤマサトシ	赤い象の親子	木材工
阿部 貴央	光彩	吹きガラス
大塚 國男	祈り 2937-1	陶芸
舟橋 真弓	普賢菩薩 (小寺礼三 模写)	絵付ステンドグラス
志賀 邦範	氷結バブル、天へ	陶芸
小林 広美	ジュエリーボックス「円・環・植」	漆芸
柳菜	成長	日本刺繍
増山 明恵	energy tone	漆
酒井ちえこ	花明かり	ガラス
伊藤 昭仁	クリサリス	陶芸
田中 好子	水明	絞り染め
佐藤 芳明	家族	陶芸
藤原 奈緒	めぐり逢い	ガラス工芸
根市 祐子	雪桜	ガラス

金子 恵子	集まって 楽しく	染織、刺繍
スペインタイル 絵付教室 Poran 片桐れい子	朝鮮王朝、チャンゴの舞	スペインタイル
渡部 裕子	はな	ガラス
鯨虎じょう	trip	陶
下平久美子	月に降りた華	陶芸
福田 典子	はなのいろは… (はなのいろは うつりにけりないたずらに わがみよにふる ながめせしまに より)	七宝
二俣 吉秀	革・FUKURO	皮革
佐藤なぎさ	ゆるして	金工
鈴木 典子	潮騒	陶
大内 明雄	壺中 (炭化焼締)	陶芸
城山みなみ	みたくてみたくないもの	金工
千葉ひろみ	TUNAGARU	陶
岩崎 淳	未徹在	陶芸
宮川 水香	俱利の舞い	漆工
古坊 聖子	皿	陶芸
大寺 純子	シリアアレppoの人々に捧ぐ	陶芸
瀬尾 凌瓶	誠龍	切り絵
興石 孝志	カオスの深淵の傍観者	切り絵
興石 孝志	光子の足跡	切り絵
瓢伸	蠢く深海の水母達	漆
瓢伸	アラビアン寺院	漆
生頼美砂恵	相	陶
ワタナベマリコ	fluctuations	陶
今井 貴絵	夢の欠片	金工
渡邊 佳子	いのちの煌めき	織物
野田 洋	やんばるの木杯	木工芸
薬王寺太一	『re_QUARK』	陶
松本 圭子	はれの日の器	陶芸
中根 和広	木楽椅子	木工芸
吉田 眞子	白磁花文組皿	陶
中村 綾也	水光接天 (和愛) メタルエンボッシング	陶芸
大野 澄子	小花によせて	陶芸
佐藤雅一郎	金線一条 (若田硯)	硯
石井あや子	Portable-Territory	陶芸
山崎 雄央	波の記憶	ガラス
志知 勢次	手削り文箱 いちょう	漆

※掲載は作品番号順です。

工芸

三浦 静香	累々	ガラス
吉田 まゆ	かがやき	漆
林田 洋子	空模様	陶芸
吉満 俊久	信楽舟形花器	陶芸
松本 洋子	切り絵本所七不思議	切り絵
西沢 久美	七夕に咲く	金工
大谷 佳子	Cloud	ガラス
代田 幸江	蒔絵銘々皿	漆
山嵜 直子	魚文掻き落し花器	陶芸
榎本 茜	円	陶芸
山本 眞次	花籠「櫓」	竹工
浅井 友里	鹿	ガラス
あないまみ	たゆたう	ガラス
徳丸 鏡子	世果報島－寿焰島・祝源島	陶芸
谷 健治	仙石原	陶芸
谷 健治	染付夏雲文壺	陶芸

書

阿彦勢津子	覚醒するいぶき
山本 清子	羅漢さんたち
木村 純子	夜空の歓喜
竹内絵里子	夜景
竹内めぐみ	終着駅
川崎 純子	まちのあかねの詩 単線電車
茅 幸子	三好達治詩 裾野
戸塚 郁子	紅葉
林 蘭愛	鳴沙降る日
江藤 多恵	足踏みする私
深沢 和子	アナベルの丘
石塚 紗知	落花の廻廊
川島智恵子	暁の飛翔
長野 和美	浄土往生
篠 能里子	珠洲の海
児玉 真理	堂ヶ島の夕景
川上真理子	拈華微笑
平澤 毅	記憶のふるさと
稲垣 蓮珠	黄色の囁き
古幡 沙願	石川啄木のうた
西野 修子	亜門里三の詩 埠頭のキリン
清澤実香子	小豆炊く
林 久子	瀬戸の夕やけ
水野 彩苑	冬のぬくもり
深瀬加代子	ケアンズの夜
菊地 悦呼	蒼天のかなた
香川 翠瑛	小さな喫茶店
中山 政子	春まだき
高橋 聖陽	黄一面の道
笠原 啓子	育花雨
佐々木瑞枝	奥村順子の句
小川 敬子	夏の朝
猪狩優里子	限らない夢
小串 彩子	冰
入澤 亮太	下町
竹内千恵子	銀の月
片平 堯子	春の香り
松尾 純子	願イヲノセテ
本間 琴秀	月光

※掲載は作品番号順です。

書

久村 拓司	東山魁夷の文 雪降る
小林美知子	(詩) 錦秋の永観堂
長井 黙庵	東山魁夷の詩「池澄む」
工藤 静泉	(詩) 貝殻の唄 (柳田光紀)
比留川秀水	与謝野晶子の歌
宮嶋 春峰	(詩) 朧月夜
岡田 明子	(詩) 陽春の三千院
上野 春海	初春 (吉行理恵の詩)
小澤 雲峰	李白詩
池上 恵峰	我が立てる
森 俊行	春 新古今和歌集のうた
上村 泊舟	寄司空図
橋本 紫柳	鄂州寓嚴澗宅
兎澤 羊舟	贈江皋陳子
岡田 佳舟	雑詩 其四
中山 壽香	澄懷園月夜同祁春圃田季舉兩編修作
荒川 涼舟	傳堯俞濟源草堂
松田 栖舟	讀山海經十三首 其の一
四季 茜歩	山上憶良のうた
加藤 心圓	天の川
木下 清華	天降りつく (万葉集)
浅間 静江	短歌二首
明石 清子	春の夜は
黒川 鶴翠	李太白詩
小磯 栄芳	清・趙翼詩
重田 鶴耀	韋応物詩
島村 秀芳	杜甫詩
高橋 暢芳	七言律詩「夜」
森崎 愛芳	王越詩
渡部 祥優	呉文泰詩
佐藤 白峰	登辨覺寺
岩嶋 巖峰	闇
清水 理佐	春の花
石黒 虚心	彩雲
大磯 洋香	氣運
清水 暉翠	鴻
増田 珠香	銀河
徳原 玉萩	高逸
大木 英泉	飛動

遠藤 子杏	昭章玄妙
松本 芳枝	虚無因循
長 巨瑠	龍行虎歩
山口早合里	和光同塵
鯉沼 紫虹	劉基詩
北澤 榮秀	徐賁の詩
小山 莊雪	漂母祠
荒木 游莫	醉如愚
滝川 実桐	涙こぼるる
佐塚 恵奈	篆書千字文
宇田知恵子	劉滄詩
池上 節子	陳与義詩
舟田 春露	孟浩然詩
土屋 景曄	陸放翁詩
猪俣 香浦	白居易
三橋 和泉	岑參詩
小林 史青	山口誓子の句
山本 草瑠	臨安春雨初霽
中村久仁江	落の臺
武 啓茜	三輪山
山口 楓晃	夏木立
山田 緑亭	呉昌碩詩
河田 玲洸	庭に見る
島海 萃春	月の色に
中尾 直子	ちりかかる
黒沢 玲香	春夜喜雨
前橋 蒼峻	陸卿子詩 贈毗陵安美人
牛山 香流	文徵明詩 致仕出京言懷
富塚 香峻	蘇東坡詩 連雨江漲二首 其二
西澤 蒼海	王漁洋詩 雨過醉翁亭三首
小林 堯霞	寄左省杜拾遺
片岡 稻處	李橙詩
浅見 玲湖	法惠寺横翠閣
加藤 美和	葉におく露
猪野 公一	倉庚鳴
猪野 光舟	従善如流
中田 早苗	桃李成蹊・好堅樹・實華清風

※掲載は作品番号順です。

写真

秋本 伸明	タイムトンネル	
稲葉 弘	何を想う	
小澤 良治	名残	
石渡 延次	ISEYA	3枚組
荒島 謙一	入園の日	3枚組
綱島 基之	航跡	
菅原 郁夫	時の流れ	3枚組
小島 満男	水泡鏡	
加地 弘典	オペラ 死にゆくうた より	
萩久保次郎	今日の終わりに	
渡辺 忠	TORSO	
相澤 演義	時は流れて	3枚組
むと	雨降る電車 音はなく 通り過ぎてく 知らぬ街 細めた瞳 映るとしたら 今は似合わぬ 真珠シャツ	
皆川 幸恵	ナイスキャッチ	
八坂 梨奈	何回春が来ても大人になれない	2枚組
江頭 良弘	宝珠	
中西 利雄	満月残光	
津金 勝枝	幻影	
飯野 日月	桜の頃ー卒業ー	3枚組
神蔵 和明	忘れられた記憶	3枚組
荒畑 隆夫	旧家の軒下	
yoko nagao	Bon voyage!	
高浦 正幸	あばよ	
笹谷奈翁美	かわりに吹くにゃ!	
山崎 俊一	ジャンプイン	
北原 實	乱舞	
鳴海 廣治	高台の春	
稲垣 健	キヨラ	
信清 正充	異次元空間	
憑	炎について	2枚組
最上ぬい子	好奇心	
鈴木 栄子	氷の銀河	
佐藤 健司	終着駅	
栗原 茂	日本の伝統	3枚組
藤原 感市	森羅万象	3枚組
小野 早苗	変化	
古山 豊	連	3枚組
高橋 春生	春の息ぶき	3枚組

今田 幹士	夜・植物たち	3枚組
石畠 一憲	祈り	3枚組
高橋 福生	闇をライトで演出「光園」	3枚組
宮園 葉月	Smoke flowers	3枚組
高橋 一弘	ホワイ ト クリスマス	3枚組
秋本 進	窓越に見る風景	
柴山千香子	ことづて	
大出 光信	「ビーチバレーボール」 ワールドツアー横浜	3枚組
三谷 享	空き缶の叫び	2枚組
T. Machi	涙につつまれて	3枚組
市川 陽一	厳冬の朝	3枚組
稲次 正知	湖上合戦図	
悠希 (yukidigis)	シンガポールのオブジェたち	3枚組
田辺 和郎	残された寂寞	3枚組
山口 寛	愛し子	
大澤 勇	太鼓打ち	3枚組
多田 正司	ハロウィンの夜	
内田 千冬	海を夢みて	
一宮 美穂	土と生きる	

※掲載は作品番号順です。

全国公募になって2回目だが、応募点数は昨年より少なかった。認知度がまだまだということもありそうだし、今年は特に開催時期の問題（年度が変わってすぐの時期には、制作が間に合わないとか）もあったようである。県内在住の応募者と全国の実験者の腕の競い合いを期待していたが、その愉しみは次回以降に持ち越し、といったところか。

第1次審査段階では特に目立つ作品がなく、こじんまりとした展覧会になるかと思われた。二次審査で授賞候補作を選出し3次審査で賞を決めていくのだが、事態は次第に紛糾の様相を示し始めるとともに、1点1点の内容は拮抗していて、結構“粒より”の展覧会になりそうに思われた。ある場合には5点の作品から1点を選ぶために投票方式（一人の審査員が3票を持って）を採用したところ、5点の作品すべてが3票獲得するというようなことが起こった。そのようなわけで、結果的には授賞から外れて惜しまれる作品が何点かあった。

今回の応募作の全体の印象としては、プロの仕事と思わせる作品は少なかったように思われる。逆に言えば、アマチュア乃至セミプロレベルのものが多かったということだ。また、従来“手芸”と見なされてきた分野——刺繍、切り紙など——からの応募が増えてきている。しかし制作の内容は、緻密な作業を繰り返していくようなタイプのものが多く、結構見応えがあった。ただ技術力をアピールするというのではなく、作業に正面から向き合っている丁寧な遂行していくという姿勢が感じられるものが多く、好感が持てた。

筆者個人としては県展におけるこういう傾向を歓迎したいと思う。IT技術やメガマシーン技術が人々の生活を規定しているこの時代は、工芸（手仕事）にどのような意義があるのかが問われている時代でもある。プロかアマかではなく、「工芸の意義」という問いを背後に控えながら、誠実に制作を進めていくという姿勢こそが重要なのだと考える。

大賞の花塚愛作「水めぐり」は、率直に言って授賞理由をどう書いていいかわからないような、言い

換えれば言葉による解説を超えてしまっているような作品だ。陶芸作品だが、工芸を超えアートを超越表現を超え時代を超えて、一つの“象徴（エンブレム）”としての存在物になっている。何の象徴かということは特化しては言えないが、あえて言うなら「いのちの象徴」とでも言えようか。

準大賞の青谷徳子作「青と静謐」はジャンルは刺繍。刺繍でこんなことができると、認識を改めさせるような制作である。今後、更に完成度を高めていくことを期待したい。

特選の石橋聖肖作「圏界一雲に浮く一」は銅、真鍮、銀、銀箔を素材に、雲の中の幻想を表現している。シンプルな作りでほのぼのとした温か味が通う。

奨励賞（兼、厚木市文化振興財団賞）の岡田光子作「fall」は陶による造形作品。骨格のがっしりした彫刻としても評価できる作である。

かながわ賞は神奈川県在住・在学・在勤が条件の賞で、木原名代作「めぐみの樹」（七宝）、大小田万侑子作「貝殻円文壁掛」（藍染）の二作が受賞。木原はエネルギー感、大小田は藍染の濃淡の諧調が美しい。

美術奨学会記念賞の伊藤雄基作の銅板鍛金技法による造形作品「ほんとうのことばになるまでのあいだ」はおおらかな造形、同賞戸叶恵介作「青華祭壺」は染付技法の絵付けが流暢で心和まされる。

ホテルニューグランド賞の山崎純子「淡花」はガラスの透明感と白色の花柄を積層して技巧的且つ清楚な美しさがある。



大賞

水めぐり

花塚 愛

陶

29×40×40cm 15kg



〔略歴〕

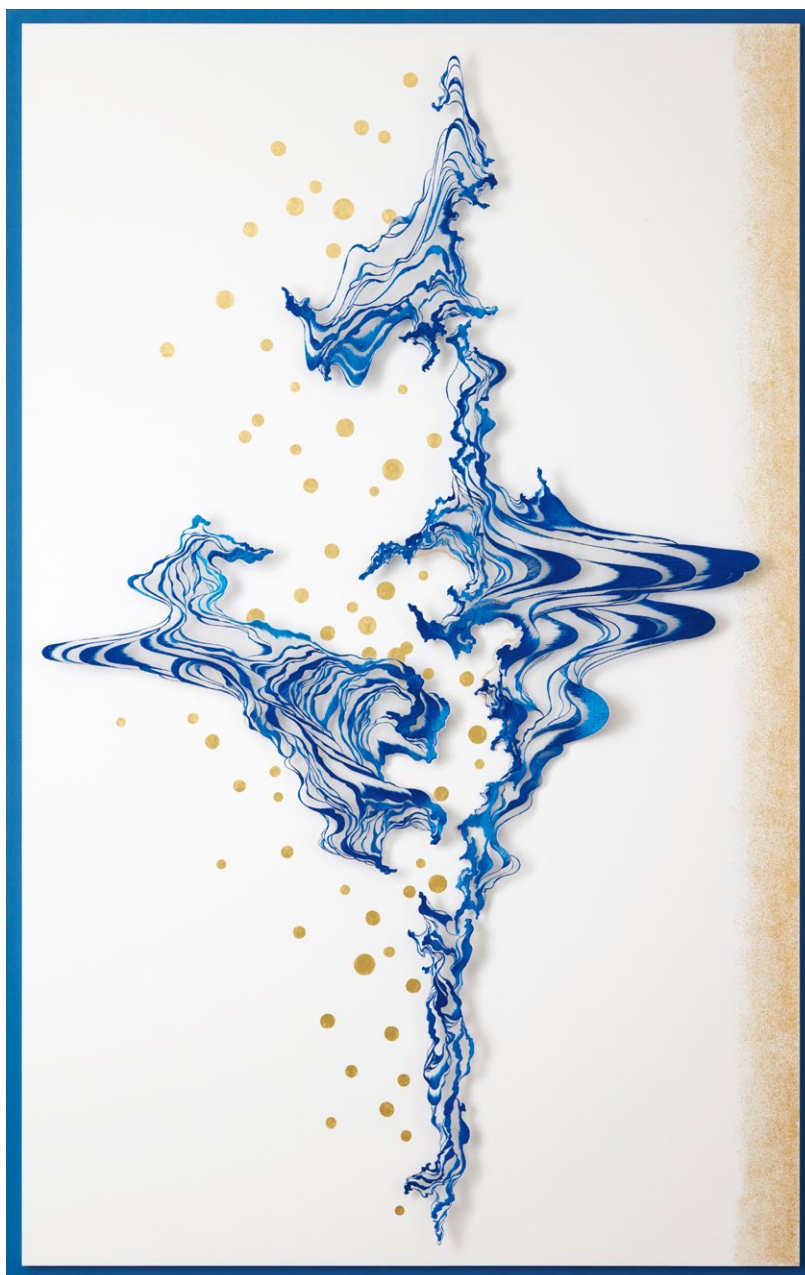
1982年 神奈川県生まれ
2005年 多摩美術大学美術学部工芸学科 卒業
2007年 京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻 修了

〔展覧会〕

2007年 個展 (INAX ガレリアセラミカ)
2009年 個展 (INAX 世界のタイル博物館)
現代工芸への視点 装飾の力 (東京国立近代美術館工芸館)
2012年 ふしぎ! たのしい! ゲンダイトーゲイ (茨城県陶芸美術館)
2015年 タマビクオリティー 多摩美の継承者たち (多摩美術大学)

〔公募展〕

2004年 第40回神奈川県美術展 平面立体部門 入選
2014年 第10回国際陶磁器展美濃 入選
第50回神奈川県美術展 工芸部門 奨励賞



準大賞

青と静謐

青谷 徳子

シルクオーガンジー、絹糸他
206×131cm 3kg

〔略歴〕

1986年 兵庫県生まれ
2010年 女子美術大学大学院美術研究科修士課程美術専攻工芸（刺繍）修了
2015年 女子美術大学芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻 非常勤講師
～現在

〔個展〕

銀座・巷房

〔企画展〕

2013年 青谷徳子展「霧のむこうへ霞む時」（六本木・ANOTHER FUNCTION）
2014年 「International Embroidery Art Exhibition Works 2014」展（中国・清華大学美術院）
2015年 「テキスタイルアート・ミニアチュール4百花百遊」
（青山・Gallery5610／金沢・21世紀美術館）



特選

圈界—雲に浮く—

石橋 聖肖

銅、真鍮、銀、銀箔
11×60×45cm 4kg





奨励賞

厚木市文化振興財団賞

fall

岡田 光子

陶土

60×40×16cm 18kg

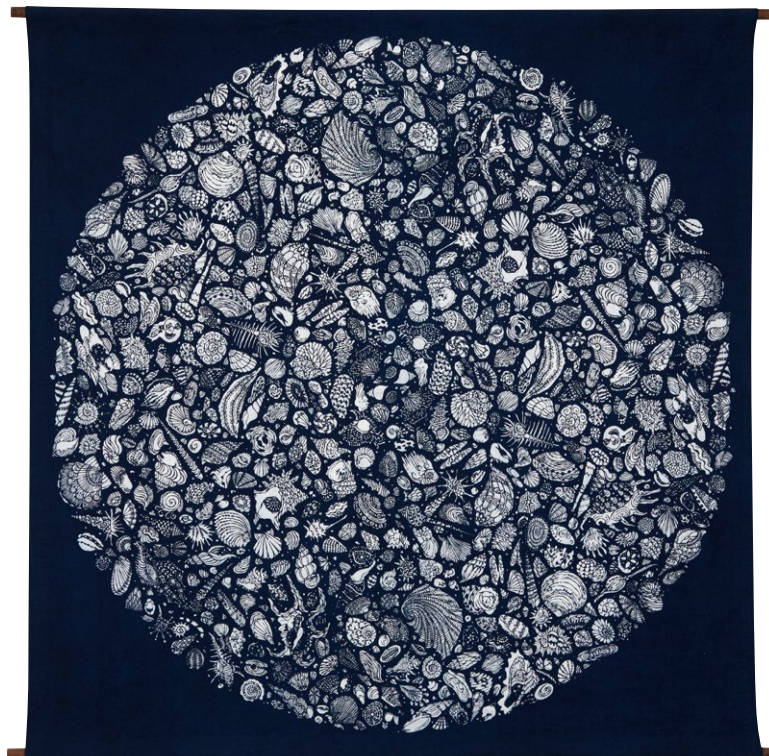


かながわ賞

めぐみの樹

木原 名代

銅板、ガラス釉薬
105×86cm 15kg



かながわ賞

貝殻円文壁掛

大小田 万侑子

麻、藍

98×96cm 0.4kg



美術奨学会記念賞

ほんとうのことばになるまでのあいだ

伊藤 雄基

銅、真鍮

50×200×50cm 15kg



美術奨学会記念賞

青華祭壺

戸叶 恵介

陶

46×16×16cm 4kg

ホテルニューグランド賞

淡花

山崎 純子

ガラス

5.5×46.5×46cm 2.4kg



本展は、昨年から全国公募展として衣替えされた。これは広汎な作品募集により、多彩な作品群の応募が展覧会を活性化させることを期待してのものである。

県展は、県民文化の向上発展にその目的があり、県展育ちの作家を育成し、県民の郷土愛を育むのがその趣旨に添うものと思われる。

さて、今展の書の応募総数は、143点、内訳は漢字45点、かな19点、近代詩文書59点、大字書12点、篆刻8点、総数で昨年より21点の減となった。

審査は、公正を期すため、始める前に全作品を通覧し、レベルの確認の上、本審査に入った。審査方法は、大旨前回と同様であるので詳細は省くが、受賞対象作は上位得点者16名に、公正を期すため次位作品19点を加え、再度見直しをした。その結果数点が受賞対象作に加えられ、受賞作選衡に入った。大賞作は、上位6作品の中から投票によって選ばれた。以下、順次同様な方法で選衡したが、同点作はその都度投票を直した。その折、誤字や問題のある作品は排除し、厳正を図った。

《漢字》 漢字作の書体は多様で表現巾が広い筈だが、応募作の傾向は行草作が主流となっている。かなの水準の高い作が揃っているものの、もっと個性的な作品の応募が期待されてならない。

準大賞・横山聖水「把酒問月」闊達自在な作調ながら、書線よく抑制されて厳然な作とした。

奨励賞・池田玲舟「司空曙詩」意思力の強さが筆致に窺われて、然も揺ぎない作である。

かながわ賞・小林大鴻「老子語」楚簡を独自の表現で異彩を放つ作だが、筆法に洗練味への一工夫が欲しい。

かながわ賞・生駒蘭嵩「項俅詩」纏りはよいが、文字の熟れが加わると一味増そうものを。

《かな作》 応募作品の力量にかなりの落差を見るが、鍛練の差に他ならない。しかし、学書途上にも関わらず応募された方々の意欲に敬意を表し、怯まずに更なる挑戦を期待したい。

大賞・下門芳子「夜露」気宇雄大にして誠に鮮や

かなる筆旋である。然も情感まで醸し出して佳趣横溢。

県文具事務用品団体連合会賞・河又世津子「いさり火の」安定した作調ながら、調子が一定のため平板になったのは否めない。この上に抑揚が加われば立体感を増しただろうに。

《近代詩文書》 この部門は表現性に重きを置くが、今展の作には文字性への配慮と自然表現が顕著であったのは嬉しい。

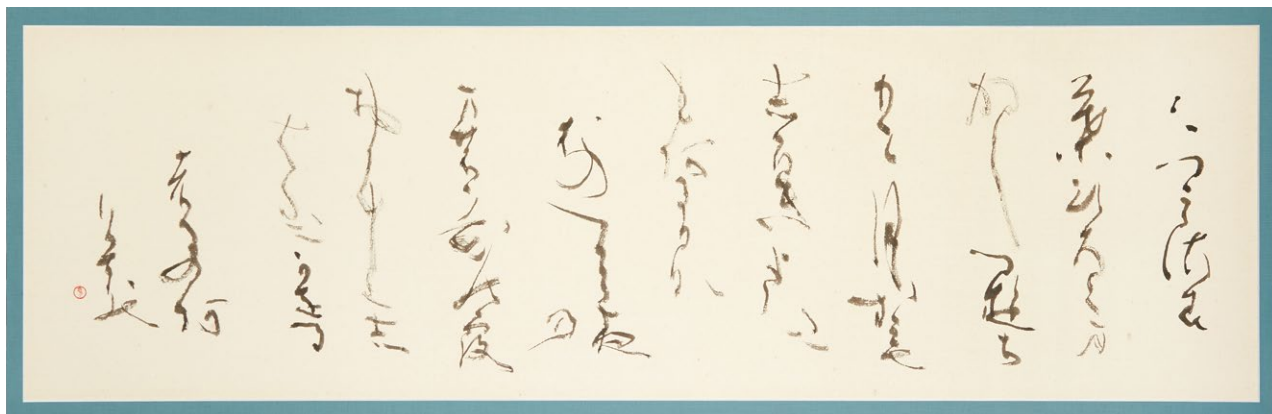
特選・馬場虹苑「有馬朗人の句」外連味なく、正攻法の作調は清々しい。潤渴筆の表現力で存在感を大いに主張せり。

美術奨学会記念賞・日守鍊「凜然と在るもの」力感豊かな作ではある。書は文字の連鎖も必要だが、一字抽出しても作品となるのが望ましい。その上に構成が成り立つのだから。

《大字書》 この部門は点数も少なく、低調さは隠せぬが、妙味ある表現世界である。多くの応募を期待したい。

《篆刻》 篆刻も前者同様だが、少ない応募の中から受賞作を得たのは、作品が水準の域にあったからである。

美術奨学会記念賞・古里航「徳如海（白文）」、「寿似山（朱文）」オーソドックスな刻法ながら、運刀に銜いなく、布字もまた丁寧で好感ある作である。衝力なきこの刻線の清々しさよ。



大賞

夜露

下門 芳子

61×182cm

[略歴]

昭和29年生 神奈川県出身・在住
 平成14年 第44回大東文化大学全国書道展 審査員奨励賞 受賞
 平成18年 第23回読賣書法展 特選 受賞
 平成23年 第47回神奈川県美術展 奨励賞 受賞

元読賣書法会 評議員
 元藍筭会理事
 齊藤紫香師事

李白詩 把酒問月

聖水書

把酒問月

182×61cm

昭和23年生 横須賀市在住
水川舟芳先生に師事
毎日書道展会員
一瀾書道会理事
芳林書通院副理事長

毎日書道展（毎日賞1回、秀作賞3回）
第49回神奈川県美術展 特選



特選

有馬朗人の句

馬場 虹苑

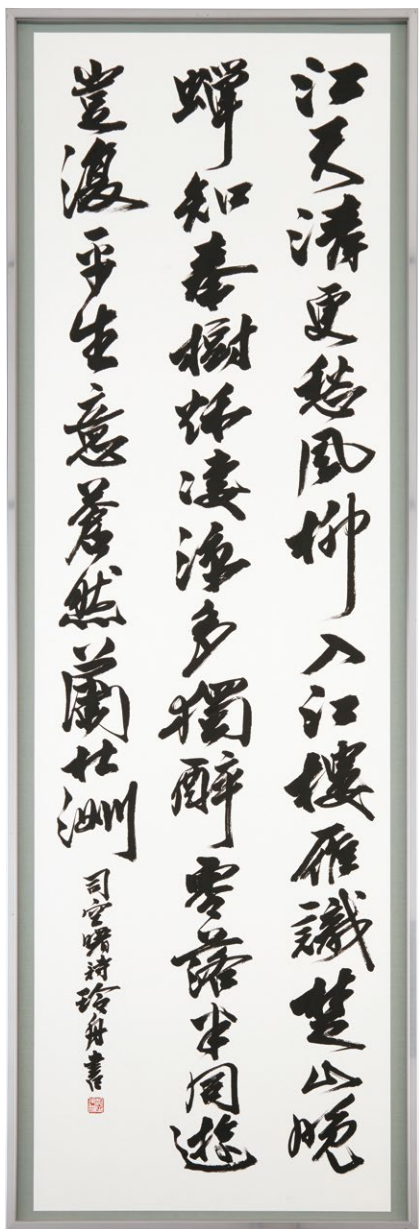
152×73cm

獎勵賞

司空曙詩

池田 玲舟

182×61cm

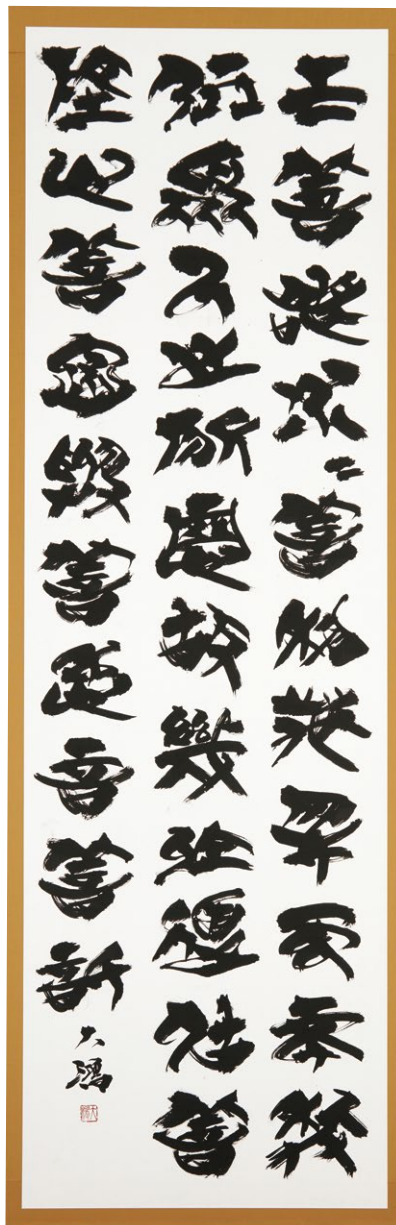


かながわ賞

老子語

小林 大鴻

182×61cm





かながわ賞

項任詩

生駒 蘭嵩

61×182cm

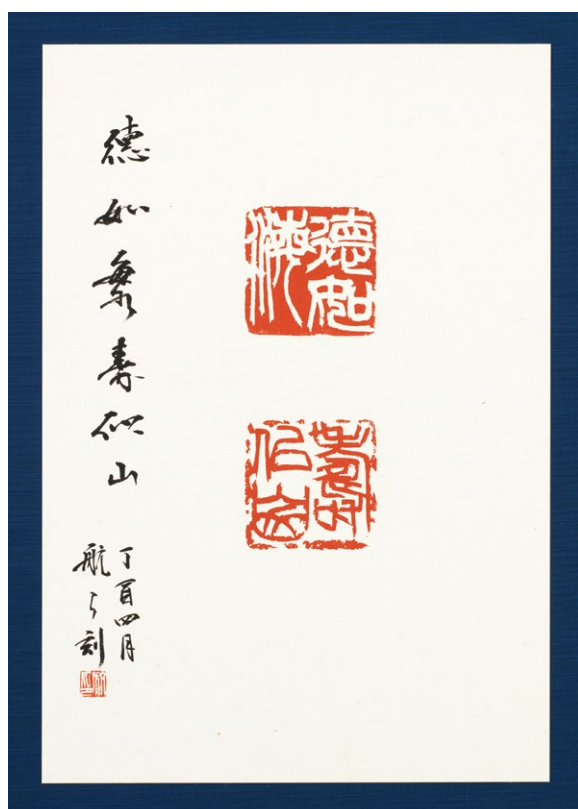


美術奨学会記念賞

凛然と在るもの

日守 鍊

152×73cm

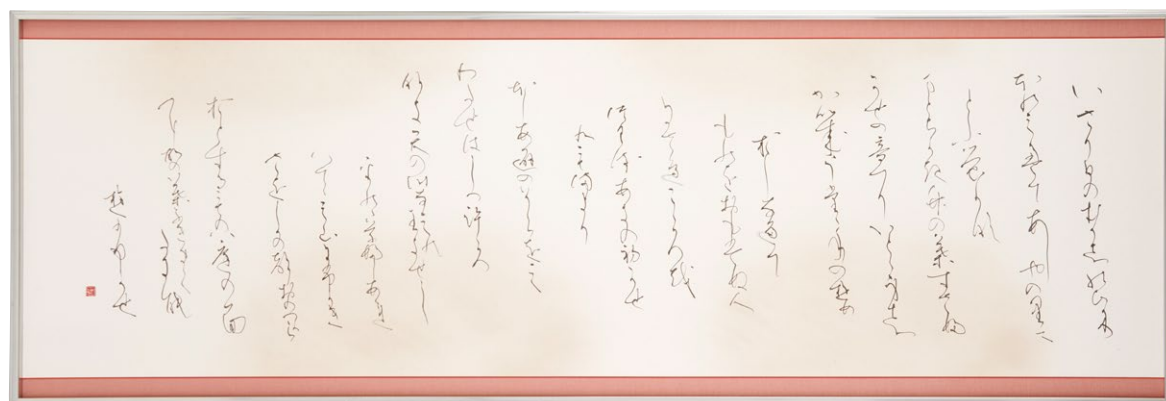


美術奨学会記念賞

徳如海寿似山

古里 航

39×30cm



県文具事務用品団体連合会賞

いさり火の

河又 世津子

61×182cm

今年度の応募作品は以前に比べて新しい表現を模索する動きが感じられ、感性の柔軟性を反映した印象を受けました。紋切型のコンテスト写真が減り、デジタル時代の新しい意欲作が多く見受けられました。現在のインターネット上に氾濫している写真群を前にした時、これから一体写真はどのように使われていくのか、そして写真の表現の可能性をどこに見出していくのかという問いを日々投げかけられています。このようなことを踏まえた共通認識を応募する側も、そして審査する側も共に持ち得ているという思いを感じました。

大賞の加山邦輔『里農の転作』はとても現代的なコンセプトに裏打ちされている作品です。太陽光発電が設置されている畑、そのソーラーパネルを画面いっぱいに配置した構図、そして麦藁帽子に白い手ぬぐいを首に回しネギ畑で農作業をしている農夫が写されたのどかな風景の三枚組写真です。この組写真が語りかけてくるメッセージは近未来の農業の複雑な姿を連想させます。タイトルにある転作（てんさく）とは、同じ農地でそれまで生産していた農作物とは違う種類の農作物を生産することなのですが、この転作は電気エネルギーという全く価値の違うものを生産するという複雑な状況を、ストレートフォトという訴求力が高い正攻法で提示しています。準大賞の小村真以『サーカス・ナイト』は黒い画面の中に扉があり裸体の男性が視線を上げて忽然と佇んでいます。どのような状況で撮影されたのか写真からはわかりませんが、それがサーカス・ナイトという奇妙なタイトルと色相の単純化と相って独特なイメージを作り上げています。そして社会や文化の性差意識（ジェンダー）やそれらに伴うタブー意識も暗示させているのではないかと思う挑発的な作品です。特選の三村信昭『はなチャンの月旅行』は昨年度カメの合成写真でニコン賞を受賞していますが、今回の作品は前回の合成技術を格段に上達させ月旅行という物語性も付加させたとてもファンタジー溢れる作品です。このような作品はアイデアを実現させる合成技術の研磨が必要で、今後尚一層の力作を期待

します。奨励賞の山中春海『はつひので』の二枚組写真は最初見たとき意味がわかりませんでした。初日の出が写っている写真の中心はデジタル処理と思われる白い長方形で隠されています。日の出を撮影している姿の写真と出来上がった写真の主題（初日の出）を隠してしまうという意図は、何かとても写真の真偽に伴う批評性に言及している知的な作品です。かながわ賞の山西郁実『メロディ』は銀塩カメラとボジフィルムとの組合せによる植物のクローズアップの三枚組み写真です。ボケの効果を最大限に活用したとてもオーストックスな手法ですが、プリントの仕上がりや撮影技術、選んだ3点のセレクションが絶妙です。もう一つのかながわ賞の市川雅章『駄菓子屋の夫婦』も撮影者との親近感が感じられ、子供の頃近所によくあった駄菓子屋での記憶がよみがえる作品で、昭和生まれの人なら誰でも郷愁に誘われるのではないのでしょうか。美術奨学会記念賞の大野詳平『痕跡』は粗っぽいハイコントラストのモノクロトーン作品です。デジタル処理を試みていると思いますが、野球のボールが背景に溶け込んで、意図的に平面的でグラフィカルなイメージを作り上げています。美術奨学会記念賞のウエイルネ『ひとのこ』はシュールレアリズムの画家マグリットを彷彿とさせるイメージです。二枚組み写真の一点が特に黒いスーツにりんご、釣竿を持った派手な衣装の女性、背景の客船という意外性が際立っています。ニコン賞の吉村奈々『残響』は人気のない部屋に扇風機がありカーテンに日の光が射し込んでいます。ただそれだけの写真ですが、写真に写すことができない空気の流れや音の気配が感じられ日常の一瞬が永遠に続くような錯覚に襲われます。

今回の受賞作品はデジタルの最新技術を駆使したものからオーストックスな銀塩写真まで、主題や技法も多様性に富み審査する側も「写真とは何か」という根源的な問いを突きつけられた審査になりました。



大賞

里農の転作

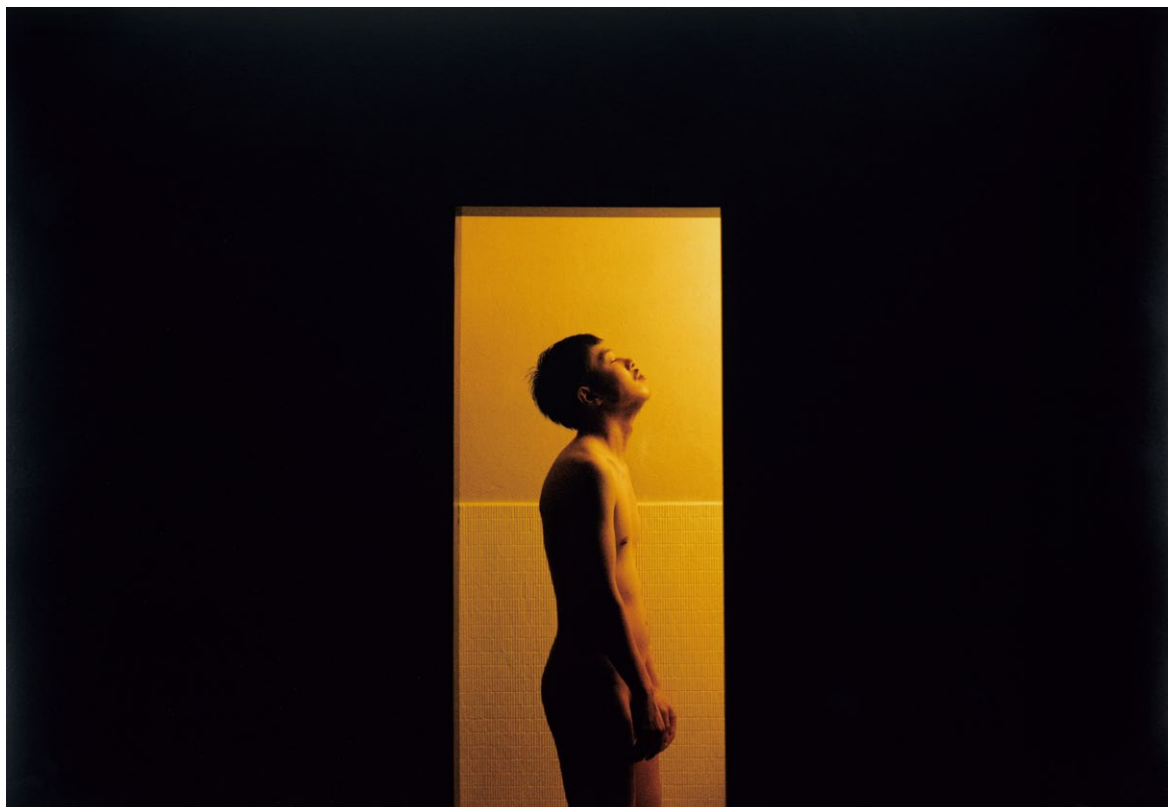
加山 邦輔

[略歴]

1939年 東京都生まれ

[受賞歴]

1976年 第9回神奈川写真サロン課題の部 大賞
1979年 第12回神奈川写真サロン自由の部 大賞
1981年 第16回神奈川県美術展 入選
1992年 第27回神奈川県美術展 入選
2008年 第44回神奈川県美術展 特選
2009年 第45回神奈川県美術展 入選
2013年 第49回神奈川県美術展 大賞
2014年 第50回神奈川県美術展 入選
2015年 第51回神奈川県美術展 入選



準大賞

サーカス・ナイト

小村 真以

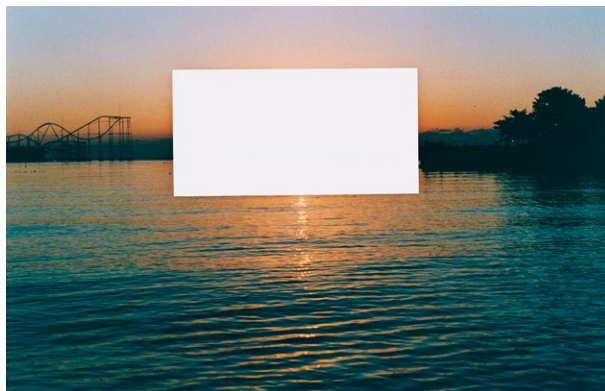
[略歴]

1993年 徳島県生まれ
2016年 関西学院大学 文学部 美学芸術学専修 卒業
株式会社博報堂プロダクツ 入社
2017年 フリーランスとして活動開始



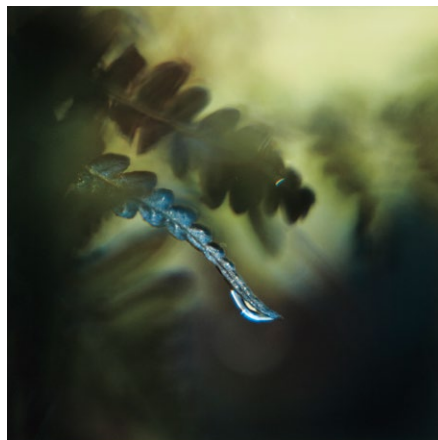
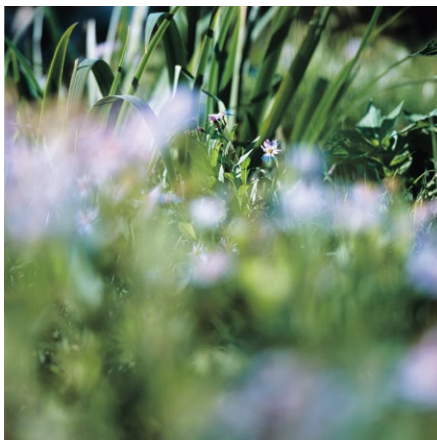
特選

はなちゃんの月旅行
三村 信昭



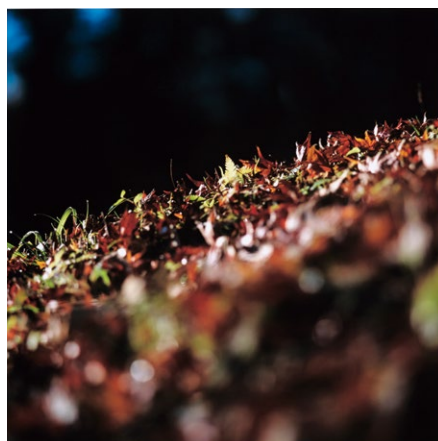
奨励賞

はつひので
山中 春海



かながわ賞

メロディ
山西 郁実





かながわ賞

駄菓子屋の夫婦

市川 雅章



美術奨学会記念賞

痕跡

大野 詳平



美術奨学会記念賞

ひとのこ
ウェアミルネ



ニコン賞

残響
吉村 奈々

人から人へ情報を伝えて70年
これからも人の心に残る製品を創ります。



UV印刷機導入いたしました

画集・美術展図録を制作から印刷・製本・納品まで
一貫した体制で承ります。お気軽にお問い合わせ下さい。

株式 会社 **気生堂印刷所**
<http://www.kiseido.jp>

〒143-0015 東京都大田区大森西4丁目6番13号
Tel.03-3766-1711 Fax.03-3766-1976
e-mail: print@kiseido.jp

The 53rd Kanagawa Art Exhibition 2017
第53回 神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール 事業課内
〒231-0023 横浜市中区山下町3-1
TEL. 045-662-5901 (代)

写真撮影：秋葉雅士
印刷：株式会社気生堂印刷所
発行：2017年6月14日



©Tomoko Fukushi